

## 卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和2年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	東京大学	整 理 番 号	1 9 0 4
プログラム名 称	変革を駆動する先端物理・数学プログラム		
プログラム責任者	星野 真弘	プログラムコーディネーター	村山 斉
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本プログラムは、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できていない取組やオンラインでの実施に変更した取組があるものの概ね順調に実施されている。</li> <li>・プログラム担当教員に対して本プログラムの趣旨を共有するための説明会を実施するなど、大学院教育改革を効果的に進めるための理解を広げる取組を行っている。</li> <li>・本プログラムの Web サイトでプログラムの具体的な内容やガイダンスのビデオを掲載するなど内容の充実化を図り、優秀な学生の募集及び広報に努めている。</li> <li>・定員数の2倍以上となる応募学生83名の中から40名を選抜した。</li> <li>・選抜した学生にRAを委嘱する対価型の支援を展開、拡充している。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大により、他分野の学生向けに自分の研究内容を短時間で発表し、学生同士で評価しあうコミュニケーション能力を高めるためのセミナー(4pm)が対面による実施からオンラインでの実施に変更されたこと、必修のコースワークとしている国外連携機関長期研修による海外派遣が実施できておらず、海外大学のオンライン講義への参加などの代替手段の検討を始めたこと、キャンパス入構制限から研究内容によっては遅れが生じていることなどの影響がある。</li> <li>・意見交換に参加したほとんどの学生が、本プログラムで異分野の学生や教員との有意義な交流ができていたなどの理由により、本プログラムに参加したことに満足している。将来のキャリアパスについては、国内外のアカデミアまたは産業界を希望する学生が多い一方、幅広い選択肢から現段階では絞れないという学生もいた。異分野交流などの十分な教育効果が出ていることを確認した。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>【大学院教育全体の改革への取組状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本プログラムは、「東京大学ビジョン2020」に基づく全学の大学院教育改革の取組みの一貫として位置付けられている。大学院教育検討会議の下、東京大学が独自で行う国際卓越大学院(WINGS)の各プログラムも含めたプログラム間の連携体制が構築されており、今後、全学的な大学院教育改革への具体的な取組が期待される。</li> <li>・本プログラムでは今後、大学院入学前にフェロースHIPの選抜が予定されていることから、国際競争の中で留学生も含め優秀な学生を確保することにつながることを期待される。</li> </ul> <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、学生の声を効果的な教育方法の構築に生かすことや、学生への就学、研究、生活面でのケアの更なる充実に対応することが望まれる。</li> <li>・プログラム学生の多くが日本人学生であり留学生が少ない状況であるが、今後学内の他のプログラムが実施している留学生の応募システムを共有するなどの取組を行うことにより、状況の改善が期待される。</li> <li>・意見交換に参加した学生はカリキュラムの重要性を理解し意欲的に取り組んでいる。</li> </ul>			

社会の出口を意識しながら、研究の深堀をして学理の構築もできるようなテーマを設定するなど、引き続き工夫することが望まれる。

- ・本プログラムでは、物理・数学融合分野のプログラムであるため、理学系が中心となり一部の工学系分野が参加しているが、量子や AI との融合のニーズの大きいと考えられるその他の工学系の分野や、プログラム学生の研究テーマと関連する医学系などの学生や教員との交流を促進することで、相互作用を更に充実化し、その結果新たな融合領域の形成にもつながることが期待される。